

あなたがたの切り出された岩、掘り出された穴を見よ。

イザヤ51:1

2013(25)年 週 報

12月1日

第1聖日

第3328号

「ローマへの挨拶」

(クリスマス連続講演一回)

聖
言

ケンクレヤにある教会の執事で、私たちの姉妹であるフィベを、あなたがたに推薦します。ローマ16:1

ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその方にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。イザヤ9:6, 7

最も幸いな人生

仕事を選ぶか、家庭を選ぶかで悩みます。家庭も仕事も調和できるのならこしたことはありません。信仰も似ています。イエス様を選ぶか、それとも自分の考えを選ぶかです。信仰において基本はいつでもイエス様に見られても恥ずかしくない。と言うことです。ここはイエス様に見られたくない。というなら自分のために生きています。どうしたら、どんな時にもイエス様に見られても恥ずかしくない信仰をすることができるかというと、第一にキリストと教会が夫婦の如き関係であるように、キリストを花婿とし真の信仰者は自分を花嫁として生きるのです。花婿キリストにのみ慰めを受け、愛の信頼関係に結ばれるとき、信仰と社会生活が一致して豊かな充実した多くの実を結ぶようになるのです。キリストより世の楽しみを慕い、キリストより金、権力、快楽を愛する人はキリストを花婿とせず、都合の良い時に助けを頼む、ヘルパーか僕のように思っているのです。そこには、キリストとの間に愛の信頼はありません。問題が解決されたなら、消えて欲しい、厄介者扱いにするのです。それでも愛の深いキリストは何も言わないで忍んでくださいますが、父なる神の御心は以下ばかりでしょう。我を忘れて仕事をする時も、くつろぐ時も、寝ている時も花婿キリストがいつもいてくださるといふ実感が湧き上がる生活こそ最も幸いな人生です。

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 神戸長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一三年一月二四日午前一〇時 礼拝 山本牧師

「互いの為の祈り」

第3327号

「兄弟たち。私たちの主イエス・キリストによって、また、御霊の愛によって切に願います。私のために、私とともに力を尽くして神に祈ってください。」(ローマ一五ノ三〇)

執り成しの祈りは信仰者の支えです。モーセのように神様と民の間に入り、民の罪を自分が負って祈る。これは十字架の主イエス様の姿である。それとともにパウロのために教会の信者が神に祈っていることによりパウロはどれだけ励まされたかわからない。

二〇一三年一月二七日午後七時 祈祷会 山本牧師

「エジプトへの預言」

「諸国の民について、預言者エレミヤにあった主のことは。エジプトについて、即ちエーフラタス河畔のカルケミシュにいたエジプトの王パロ・ネの軍勢について、ヨシヤの子、ユダの王エホヤキムの第四年に、バビロンの王ネブカデネザルはこれを打ち破った。」(エレミヤ四六ノ一、二)

ユダは絶えず大国の狭間で揺れ動いていた。エレミヤは神の言葉を語り、人間の力に頼らず、神の言葉を信じる要に励ました。しかし、王から民に至るまで、見えるものにより頼み、右往左往していた。特に信頼していたエジプトもカルケミシュの戦いでバビロンに徹底的な敗北を記し、その後は二度と国外に進出することはなかった。地が揺れ動くなかにも十字架は輝いている。今も十字架の主イエス様以外により頼むお方はありません。

今年のクリスマス

日時 一月二二日(日)
賛美礼拝 午前一一時

会食費(御寿司 大七〇〇円 小四〇〇円)

コンサート 午後 二時

ピアノと賛美 水野夏子姉、水野洋一兄、

ギター演奏 木島 泰兄

大日丘クリスマスたこ焼き会

日時 一月二三日(月)

たこ焼き会 午後 二時

場所 大日が丘住宅集会所

腹話術、ゲーム、賛美

ギター演奏 木島 泰兄

クリスマス連続講演

一、救い主到来の予告

二、ザカリヤの賛歌

三、マリヤの賛歌

四、救い主の降誕

クリスマス約束献金実施中

献金必要金額 一二五万円

乞う祈祷と御協力
役員、会計、牧師

宣教②

第三課 歴史の主人公になられた神

—世界宣教の歴史—

三・一 迫害の中で花開いたローマ帝国宣教時代

(〇〇四〇〇年) 第一期

三・一・三 ローマ帝国での宣教的衰退と帝国の滅亡

キリスト教がローマの国教となり、帝国の支援と援助を受け

て本格的に聖書の写本作業を行われた。これによって帝国の周辺国家に福音が効果的に伝わるようになった。しかしキリスト教は徐々に制度化、帰属されるようになり、自然と迫害当時の情熱を失っていった。これは周辺民族に対する宣教を軽視する結果を招いた。教会が福音を伝える役割を十分に担えなくなると、神は福音を諸国に伝えるように歴史の転換を準備された。

それがゲルマン人のローマ帝国侵入だった。ローマ帝国で花開いたキリスト教が自発的に行く宣教をおろそかにした結果、ゲルマン人がヨーロッパの新しい主人公として君臨することになったのだ。しかしそんな中でもパトリキウスやウルフィラ（三一―三三八）といった宣教師たちがアイルランドやゴート人に情熱的に福音を伝えた。

三・二 修道院が命脈を保ったゲルマン人宣教時代（四〇〇―八〇〇年―第二期）

五世紀にはいると制度化された教会は力を失い、ゴート人、西ゴート人、ヴァンダル人、アングロサクソン人といった蛮族がローマに侵入し、ローマ帝国の衰退は加速化した。ローマは帝国の半分を失ったが、この過程で上記の蛮族がローマ人よりも徹底したキリスト教信仰を持つと言う歴史のアイロニーが生じた。一方、修道院を中心として、世俗化した信仰を拒み、純粹な信仰を守ろうとする運動も展開した。

三・二・一 宣教のメカニズム

この時期は上記で触れた民族が「自発的に来る」時代だった。その後、大部分の修道院が建てられた。多くの修道院は修道院中心に信仰を維持しながら拡大していったが、一部の修道院は「自発的に行く」宣教の任務を遂行していくようになった。

ストーリーカーの多発を憂う

私も失恋が原因で信仰に導かれたものです。信仰当初は私のような女性にふられて行き詰る者がいたら伝道したいと考えていました。しかし、あまりそのような人と接することはありませんでした。しかし、最近交際相手の女性を殺す事件が多発することで、やっぱり私のような人間も多くいることが分かりました。私は絶望の時も家族が心配してくれ、仕事もしていたので、なんとか最悪の事態は避けることができました。最も幸いなことは、この教会に飛び込んできて「洗礼を受けさせてください。（相手の女性が信仰のことを少しかじっていたため）」と言ったことです。そこでイエス様にお会いすることができました。これからもストーリーカーが起きるでしょう。それは世に男と女がいるかぎりなくなりません。ストーリーカーをなくすことよりも、そこで耐える心、恋愛より素晴らしい人生があることを発見することなのです。いわゆる、私のように、恋愛に優りイエス様の愛に満たされるなら失恋しても立ちあがることのできるのです。